

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 5 2021年8月23日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

「高校の統廃合・学級削減ではなく少人数学級です！」

北海道連絡会が道教委と「高校配置計画案」で意見交換

8月6日「ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会」は道教委に対し、今年度は留辺蘂高校の募集停止等を提案している「高校配置計画案」に対する要求書を提出し、意見交換をしました。

40人学級で1学年4～8学級を「のぞましい規模」の高校とする道教委の高校づくりに関する指針に対し、少人数学級が教育の質の向上に有効

であること、北海道財政の厳しさを理由とした学級削減をするべきでないことを指摘しまし

た。

道労連の三上友衛さんは「地方の小規模校の成果や魅力の発信も必要ではないか。医療関係で言えば、以前は多くの保健所があったのに今は保健センターのみとなるなど、減らしすぎて今はコロナ対応に困る事態になった。『こうあるべき』という主体的な議論なしに減らした結果であり、誰も責任を取らない。高校も『お金がないから』と減らしていくと同じことになるのでは、と感じる」と鋭く迫りました。

道教委担当者は「本日頂いた意見については、非常に参考になる部分も多く、ありがとうございました。これからもできるだけ丁寧に説明をしながら、いろいろな意見も頂きながら、最善のやり方を模索したいと思っています」と返答しました。



教育全国署名「西いぶりスタート集会」開催

総選挙も見据え、少人数学級を一気にすすめるチャンス

8月21日、「ゆきとどいた教育をすすめる西いぶり連絡会」が室蘭市で教育全国署名スタート集会を開催し、10数人が参加しました。

全教副委員長の浪岡知朗さんがYoutube参加し、「令和の日本型学校教育による公教育の市場化ではなく、すべての子どもたちにゆきとどいた教育を保障しよう」と題して講演がありました。

その中で、「全国の小中学校でGIGAスクール構想による1人1台端末配布と活用が行われ、機器の設定や教材作成など大きな混乱が起きている。AIやICT活用推進によって現実の子どもたちの実態から出発した多様で柔軟な授業づくりが困難となる危険性がある。40年ぶりの小学校編成基準引き下げが実現し、法案の付帯決議に、『中学校35人学級、高等学校の学級編成の標準の在り方についても検討』が盛り込まれました。

やっぱり教育全国署名が大事。今年も頑張りましょう」と語りました。

集会では、今年の街頭署名の予定、事業所

や商店街への署名依頼行動などを確認しました。

学校現場からは、GIGAスクール推進の圧力が強く、先生方が自分で考える自由を奪われている。学校が息苦しいなど語られました。

西いぶり連絡会として、子どもマニフェストを作成し、総選挙の候補や各政党を訪問して要請することも検討しているそうです。

